

第1四半期報告書

本書は、EDINET(Electronic Disclosure for Investors' NETwork)システムを利用して金融庁に提出した第1四半期報告書の記載事項を、紙媒体として作成したものです。

株式会社横浜銀行

(E03559)

目 次

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	2
第2 【事業の状況】	3
1 【事業等のリスク】	3
2 【経営上の重要な契約等】	3
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	3
第3 【提出会社の状況】	7
1 【株式等の状況】	7
(1) 【株式の総数等】	7
① 【株式の総数】	7
② 【発行済株式】	7
(2) 【新株予約権等の状況】	7
(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】	7
(4) 【ライツプランの内容】	7
(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】	7
(6) 【大株主の状況】	7
(7) 【議決権の状況】	8
① 【発行済株式】	8
② 【自己株式等】	8
2 【役員の状況】	8
第4 【経理の状況】	9
1 【四半期連結財務諸表】	10
(1) 【四半期連結貸借対照表】	10
(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】	12
【四半期連結損益計算書】	12
【第1四半期連結累計期間】	12
【四半期連結包括利益計算書】	13
【第1四半期連結累計期間】	13
【注記事項】	14
【セグメント情報】	15
2 【その他】	16
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	17
レビュー報告書	巻末

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年8月5日

【四半期会計期間】 第154期第1四半期(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

【会社名】 株式会社横浜銀行

【英訳名】 The Bank of Yokohama, Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役頭取 寺 澤 辰 麿

【本店の所在の場所】 横浜市西区みなとみらい3丁目1番1号

【電話番号】 (045)225-1111(大代表)

【事務連絡者氏名】 経営企画部主計室 室長 斉 藤 純 一

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋2丁目8番2号
株式会社横浜銀行東京支店

【電話番号】 (03)3272-4171(大代表)

【事務連絡者氏名】 副支店長 岩 田 英 樹

【縦覧に供する場所】 株式会社横浜銀行東京支店
(東京都中央区日本橋2丁目8番2号)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

		平成25年度第 1 四半期 連結累計期間	平成26年度第 1 四半期 連結累計期間	平成25年度
		(自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年 6 月30日)	(自 平成26年 4 月 1 日 至 平成26年 6 月30日)	(自 平成25年 4 月 1 日 至 平成26年 3 月31日)
経常収益	百万円	72,267	69,532	294,451
経常利益	百万円	25,974	24,769	102,200
四半期純利益	百万円	15,426	15,361	—
当期純利益	百万円	—	—	60,690
四半期包括利益	百万円	14,036	23,917	—
包括利益	百万円	—	—	66,364
純資産額	百万円	896,779	924,620	921,506
総資産額	百万円	13,284,590	13,645,879	13,832,063
1 株当たり四半期純利益金額	円	11.82	12.04	—
1 株当たり当期純利益金額	円	—	—	46.78
潜在株式調整後 1 株当たり 四半期純利益金額	円	11.81	12.04	—
潜在株式調整後 1 株当たり 当期純利益金額	円	—	—	46.76
自己資本比率	%	6.32	6.34	6.24

(注) 1 当行及び国内連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

2 1 株当たり情報の算定上の基礎は、「第 4 経理の状況」中、「1 四半期連結財務諸表」の「1 株当たり情報」に記載しております。

3 自己資本比率は、((四半期)期末純資産の部合計－(四半期)期末新株予約権－(四半期)期末少数株主持分)を(四半期)期末資産の部の合計で除して算出しております。

2 【事業の内容】

当第 1 四半期連結累計期間において、当行及び当行の関係会社が営む事業の内容については、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても、異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間のわが国経済を振り返りますと、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動などによって景気は弱い動きとなりました。すなわち、駆け込み需要の反動で、個人消費が耐久財消費を中心に大幅に落ち込み、また住宅建築も低調な推移となりました。ただ、反動減の影響は概ね企業の想定範囲内に収まっており、企業マインドの悪化は小幅にとどまりました。加えて、企業収益が回復基調にあることなどから、企業の設備投資意欲にも改善の動きが現れました。一方、輸出に関しては、海外経済の回復ペースが緩やかなものにとどまっていることなどから、横ばい圏内の動きが続きました。

神奈川県経済も弱い動きとなりました。すなわち、個人消費や住宅建築が駆け込み需要の反動で落ち込むとともに、輸出も伸び悩んだことから、企業の生産活動が弱含みました。ただ、企業業績の改善などを背景に、企業の設備投資計画は増勢を維持しました。

金融面では、日本銀行による「量的・質的金融緩和」の効果により、短期金利が極めて低位で安定的に推移し、また長期金利も総じて0.6%前後の低水準での推移が続きました。

このような金融経済環境のもと、当行は「お客さま、株主、行員、地域社会にとって魅力あふれる金融機関」を長期ビジョンに掲げ、当行グループの強みであるリージョナル・リテール分野に経営資源を集中投下し、全力をあげて経営体質の強化と業績の伸展に努めてまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間における業績は、以下のとおりとなりました。

預金は、総合取引の推進等による拡大に努めましたが、当期において2,941億円減少し、11兆5,351億円となりました。このうち、定期性預金は当期において55億円増加し、3兆2,894億円となりました。

次に、貸出金は当期において601億円増加し、9兆5,136億円となりました。また、有価証券は当期において2,023億円増加し、2兆2,470億円となりました。なお、このうち国債は、当期において1,975億円増加し、7,442億円となりました。

そのほか、総資産は当期において1,862億円減少し、13兆6,458億円となり、純資産は当期において31億円増加し、9,246億円となりました。

当期の損益につきましては、資金運用収益を中心とする経常収益が695億3千2百万円となり、営業経費を中心とする経常費用が447億6千3百万円となった結果、経常利益は、前年同期に比べ12億5百万円減少し、247億6千9百万円となりました。また、四半期純利益は、前年同期に比べ6千5百万円減少し、153億6千1百万円となりました。

① 国内・海外別収支

当第1四半期連結累計期間の資金運用収支は、前第1四半期連結累計期間比 14億8千6百万円減少して 381億9千1百万円、役務取引等収支は、前第1四半期連結累計期間比 9億1千6百万円減少して 135億8千8百万円、特定取引収支は、前第1四半期連結累計期間比 2千7百万円減少して 4億7百万円、その他業務収支は、前第1四半期連結累計期間比 13億5千4百万円減少して 26億3千2百万円となりました。

種類	期別	国内	海外	相殺消去額(△)	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
資金運用収支	前第1四半期連結累計期間	39,339	338	—	39,677
	当第1四半期連結累計期間	37,822	368	—	38,191
うち資金運用収益	前第1四半期連結累計期間	42,033	345	310	42,068
	当第1四半期連結累計期間	40,216	379	310	40,285
うち資金調達費用	前第1四半期連結累計期間	2,694	6	310	2,390
	当第1四半期連結累計期間	2,394	10	310	2,094
役務取引等収支	前第1四半期連結累計期間	14,505	△0	—	14,504
	当第1四半期連結累計期間	13,588	△0	—	13,588
うち役務取引等収益	前第1四半期連結累計期間	15,271	0	—	15,271
	当第1四半期連結累計期間	14,561	0	—	14,562
うち役務取引等費用	前第1四半期連結累計期間	765	1	—	766
	当第1四半期連結累計期間	972	1	—	973
特定取引収支	前第1四半期連結累計期間	434	—	—	434
	当第1四半期連結累計期間	407	—	—	407
うち特定取引収益	前第1四半期連結累計期間	434	—	—	434
	当第1四半期連結累計期間	407	—	—	407
うち特定取引費用	前第1四半期連結累計期間	—	—	—	—
	当第1四半期連結累計期間	—	—	—	—
その他業務収支	前第1四半期連結累計期間	3,993	△6	△0	3,986
	当第1四半期連結累計期間	2,641	22	31	2,632
うちその他業務収益	前第1四半期連結累計期間	12,169	—	6	12,163
	当第1四半期連結累計期間	13,575	31	39	13,566
うちその他業務費用	前第1四半期連結累計期間	8,176	6	6	8,176
	当第1四半期連結累計期間	10,933	8	8	10,933

(注) 1 「国内」とは、当行(海外店を除く)及び国内に本店を有する連結子会社(以下「国内連結子会社」という。)であります。

「海外」とは、当行の海外店及び海外に本店を有する連結子会社(以下「海外連結子会社」という。)であります。

2 「相殺消去額」には内部取引金額等を表示しております。

② 国内・海外別預金残高の状況

○ 預金の種類別残高(末残)

種類	期別	国内	海外	相殺消去額(△)	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
預金合計	前第1四半期連結会計期間	11,309,332	0	40	11,309,291
	当第1四半期連結会計期間	11,534,040	1,197	46	11,535,191
うち流動性預金	前第1四半期連結会計期間	7,766,181	0	—	7,766,182
	当第1四半期連結会計期間	8,056,312	309	—	8,056,621
うち定期性預金	前第1四半期連結会計期間	3,321,051	—	—	3,321,051
	当第1四半期連結会計期間	3,288,606	888	—	3,289,494
うちその他	前第1四半期連結会計期間	222,098	—	40	222,057
	当第1四半期連結会計期間	189,121	—	46	189,074
譲渡性預金	前第1四半期連結会計期間	60,124	—	—	60,124
	当第1四半期連結会計期間	78,892	—	—	78,892
総合計	前第1四半期連結会計期間	11,369,456	0	40	11,369,416
	当第1四半期連結会計期間	11,612,932	1,197	46	11,614,083

(注) 1 「国内」とは、当行(海外店を除く)及び国内連結子会社であります。

「海外」とは、当行の海外店及び海外連結子会社であります。

2 流動性預金＝当座預金＋普通預金＋貯蓄預金＋通知預金

3 定期性預金＝定期預金

4 「相殺消去額」には内部取引金額等を表示しております。

③ 国内・海外別貸出金残高の状況
○ 業種別貸出状況(末残・構成比)

業種別	前第1四半期連結会計期間		当第1四半期連結会計期間	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
国内 (除く特別国際金融取引勘定分)	9,376,888	100.00	9,499,578	100.00
製造業	982,962	10.48	912,195	9.60
農業、林業	3,189	0.03	2,798	0.03
漁業	8,230	0.09	5,795	0.06
鉱業、採石業、砂利採取業	4,229	0.05	4,705	0.05
建設業	242,176	2.58	222,101	2.34
電気・ガス・熱供給・水道業	15,624	0.17	17,445	0.18
情報通信業	57,444	0.61	58,779	0.62
運輸業、郵便業	344,596	3.67	316,173	3.33
卸売業、小売業	732,077	7.81	754,686	7.95
金融業、保険業	184,376	1.97	197,052	2.07
不動産業、物品賃貸業	2,484,708	26.50	2,518,402	26.51
その他の各種サービス業	726,005	7.74	726,933	7.65
地方公共団体	172,891	1.84	203,101	2.14
その他	3,418,377	36.46	3,559,409	37.47
海外及び特別国際金融取引勘定分	11,470	100.00	14,094	100.00
政府等	—	—	—	—
金融機関	—	—	—	—
その他	11,470	100.00	14,094	100.00
合計	9,388,358	——	9,513,672	——

(注) 1 「国内」とは、当行(海外店を除く)及び国内連結子会社であります。
2 「海外」とは、当行の海外店及び海外連結子会社であります。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

① 対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、対処すべき課題について重要な変更はありません。

② 財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

当行の株式は譲渡自由が原則であり、株式市場を通じて多数の投資家の皆さまにより、自由で活発な取引をいただいております。よって、当行の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方についても、当行株式の自由な取引により決定されるべきであると考えております。

このような認識のもと、当行は、株主共同の利益を中長期的に維持・向上させるため、経営の効率性・収益性を高め、株主還元を積極的におこなうことを通じて企業価値の最大化に取り組んでおります。

なお、上記の考え方に照らして不適切な者によって当行の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取り組み、すなわち買収防衛策は導入しておりませんが、現在の経営方針を徹底し、株主の皆さまをはじめとする様々なステークホルダーとの信頼関係を確立していくことが、買収防衛にとって重要であると考えております。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	3,000,000,000
計	3,000,000,000

② 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成26年8月5日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	1,292,071,054	1,292,071,054 (注)	東京証券取引所 (市場第1部)	権利内容に何ら限定のない、標準となる株式。 単元株式数は1,000株。
計	1,292,071,054	1,292,071,054	—	—

(注) 平成26年8月1日から四半期報告書を提出する日までの平成13年改正旧商法に基づく新株予約権(ストックオプション)の権利行使並びに会社法に基づく新株予約権(株式報酬型ストックオプション)の権利行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年4月1日～ 平成26年6月30日	—	1,292,071	—	215,628	—	177,244

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成26年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成26年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 10,880,000	—	「(1)②発行済株式」の「内容」欄に記載のとおりであります。
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,277,944,000	1,277,942	同上
単元未満株式	普通株式 3,247,054	—	1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	1,292,071,054	—	—
総株主の議決権	—	1,277,942	—

② 【自己株式等】

平成26年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
株式会社横浜銀行	横浜市西区みなとみらい 3丁目1番1号	10,880,000	—	10,880,000	0.84
計	—	10,880,000	—	10,880,000	0.84

- (注) 1 上記のほか、株主名簿上は当行名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が2,000株あります。
なお、当該株式は上記「①発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」の「株式数」の欄に含まれておりません。また、上記「①発行済株式」の「議決権の数」の欄には、当該完全議決権株式に係る議決権の数2個は含まれておりません。
- 2 平成26年5月12日開催の取締役会決議に基づき、平成26年5月16日から平成26年6月13日までに、自己株式17,844,000株を取得しました。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

- 1 当行の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しておりますが、資産及び負債の分類並びに収益及び費用の分類は、「銀行法施行規則」（昭和57年大蔵省令第10号）に準拠しております。
- 2 当行は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（自平成26年4月1日 至平成26年6月30日）及び第1四半期連結累計期間（自平成26年4月1日 至平成26年6月30日）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツの四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
資産の部		
現金預け金	1,423,159	982,283
コールローン及び買入手形	283,210	189,053
買入金銭債権	125,896	123,740
特定取引資産	10,045	10,011
有価証券	※2 2,044,741	※2 2,247,006
貸出金	※1 9,453,564	※1 9,513,672
外国為替	5,101	4,735
リース債権及びリース投資資産	66,628	64,878
その他資産	101,872	199,282
有形固定資産	123,877	124,783
無形固定資産	11,523	11,383
退職給付に係る資産	16,120	14,865
繰延税金資産	16,021	15,288
支払承諾見返	222,377	217,467
貸倒引当金	△72,076	△72,573
資産の部合計	13,832,063	13,645,879
負債の部		
預金	11,829,221	11,535,191
譲渡性預金	49,610	78,892
コールマネー及び売渡手形	182,178	173,740
債券貸借取引受入担保金	91,591	183,702
特定取引負債	702	692
借入金	301,184	257,109
外国為替	59	65
社債	30,000	30,000
その他負債	181,668	222,689
役員賞与引当金	64	-
退職給付に係る負債	216	223
睡眠預金払戻損失引当金	1,572	1,406
偶発損失引当金	748	737
特別法上の引当金	8	9
繰延税金負債	46	24
再評価に係る繰延税金負債	19,305	19,305
支払承諾	222,377	217,467
負債の部合計	12,910,556	12,721,259

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年 3 月31 日)	当第 1 四半期連結会計期間 (平成26年 6 月30 日)
純資産の部		
資本金	215,628	215,628
資本剰余金	177,244	177,244
利益剰余金	393,957	398,886
自己株式	△5,585	△15,556
株主資本合計	781,244	776,202
その他有価証券評価差額金	56,190	63,474
繰延ヘッジ損益	7	24
土地再評価差額金	34,216	34,216
退職給付に係る調整累計額	△8,469	△7,875
その他の包括利益累計額合計	81,945	89,839
新株予約権	265	253
少数株主持分	58,050	58,323
純資産の部合計	921,506	924,620
負債及び純資産の部合計	13,832,063	13,645,879

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)
経常収益	72,267	69,532
資金運用収益	42,068	40,285
(うち貸出金利息)	35,016	33,270
(うち有価証券利息配当金)	5,824	5,513
役務取引等収益	15,271	14,562
特定取引収益	434	407
その他業務収益	12,163	13,566
その他経常収益	2,329	711
経常費用	46,293	44,763
資金調達費用	2,390	2,094
(うち預金利息)	1,451	1,145
役務取引等費用	766	973
その他業務費用	8,176	10,933
営業経費	27,873	28,292
その他経常費用	7,085	2,469
経常利益	25,974	24,769
特別損失	58	107
固定資産処分損	58	106
その他の特別損失	0	0
税金等調整前四半期純利益	25,915	24,662
法人税、住民税及び事業税	10,472	11,038
法人税等調整額	△645	△2,422
法人税等合計	9,827	8,615
少数株主損益調整前四半期純利益	16,088	16,046
少数株主利益	661	685
四半期純利益	15,426	15,361

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	16,088	16,046
その他の包括利益	△2,051	7,870
その他有価証券評価差額金	△2,061	7,260
繰延ヘッジ損益	10	16
退職給付に係る調整額	-	594
四半期包括利益	14,036	23,917
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	13,222	23,256
少数株主に係る四半期包括利益	814	661

【注記事項】

(会計方針の変更)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下、「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下、「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法を割引率決定の基礎となる債券の期間について従業員の平均残存勤務期間に近似した年数を基礎に決定する方法から退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第1四半期連結会計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第1四半期連結会計期間の期首の退職給付に係る負債が3,257百万円増加し、利益剰余金が2,097百万円減少しております。なお、これによる当第1四半期連結累計期間の経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

(四半期連結貸借対照表関係)

※1 貸出金のうち、リスク管理債権は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
破綻先債権額	4,638百万円	8,068百万円
延滞債権額	178,322百万円	176,597百万円
3ヵ月以上延滞債権額	3,694百万円	4,315百万円
貸出条件緩和債権額	22,458百万円	21,871百万円
合計額	209,112百万円	210,853百万円

なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

※2 有価証券中の社債のうち、有価証券の私募(金融商品取引法第2条第3項)による社債に対する保証債務の額

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
	91,287百万円	89,365百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)
減価償却費	2,182百万円	2,176百万円
のれんの償却額	168百万円	51百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

1 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年5月10日 取締役会	普通株式	7,850	6.0	平成25年3月31日	平成25年5月27日	利益剰余金

- 2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

1 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年5月12日 取締役会	普通株式	8,327	6.5	平成26年3月31日	平成26年5月26日	利益剰余金

- 2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当行グループは、銀行業を中心に、リース業、証券業、その他の金融サービスに係る事業を行っております。また、当行はグループ戦略会議を設置し、グループ各社の事業の経営目標の設定及び履行状況の定期的な検証等を行い、グループ全体の経営管理を統括しております。なお、グループ各社が営む銀行業以外の事業については重要性が乏しいことから、セグメント情報の記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

		前第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	円	11.82	12.04
(算定上の基礎)			
四半期純利益	百万円	15,426	15,361
普通株主に帰属しない金額	百万円	—	—
普通株式に係る四半期純利益	百万円	15,426	15,361
普通株式の期中平均株式数	千株	1,305,060	1,274,834
(2) 潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額	円	11.81	12.04
(算定上の基礎)			
四半期純利益調整額	百万円	—	—
普通株式増加数	千株	770	651
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		新株予約権2種類(新株予約権の数 6,256個)。	新株予約権1種類(新株予約権の数 4,288個)。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

期末配当

平成26年5月12日開催の取締役会において、第153期の期末配当につき次のとおり決議しました。

期末配当金額 8,327百万円

1株当たりの期末配当金 6円50銭

支払請求の効力発生日及び支払開始日 平成26年5月26日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年 8 月 1 日

株式会社 横浜銀行

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 吉 田 波 也 人 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 濱 原 啓 之 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社横浜銀行の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社横浜銀行及び連結子会社の平成26年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当行(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。